

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成20年11月13日

【四半期会計期間】 第19期第1四半期(自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)

【会社名】 株式会社エーワン精密

【英訳名】 A-ONE SEIMITSU INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 林 哲也

【本店の所在の場所】 東京都府中市分梅町二丁目20番5号

【電話番号】 (042)363-1039 (代表)

【事務連絡者氏名】 管理グループ 島田園子

【最寄りの連絡場所】 東京都府中市分梅町二丁目20番5号

【電話番号】 (042)363-1039 (代表)

【事務連絡者氏名】 管理グループ 島田園子

【縦覧に供する場所】 株式会社ジャスダック証券取引所
(東京都中央区日本橋茅場町1丁目4番9号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

提出会社の経営指標等

回次	第19期 第1四半期 累計(会計)期間	第18期
会計期間	自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日	自 平成19年7月1日 至 平成20年6月30日
売上高 (千円)	522,039	2,186,356
経常利益 (千円)	195,693	822,779
四半期(当期)純利益 (千円)	115,274	487,817
持分法を適用した 場合の投資利益 (千円)	—	—
資本金 (千円)	292,500	292,500
発行済株式総数 (株)	15,000	15,000
純資産額 (千円)	6,452,975	6,616,097
総資産額 (千円)	7,005,840	7,121,741
1株当たり純資産額 (円)	430,198.33	441,073.19
1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	7,684.99	32,521.18
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	—	—
1株当たり配当額 (円)	—	10,800.00
自己資本比率 (%)	92.10	92.90
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	163,387	515,875
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△ 203,293	△ 774,940
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△ 101,409	△ 167,953
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	1,095,988	1,237,303
従業員数 (名)	91	92
(他、平均臨時雇用者数)	(14)	(14)

(注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がありませんので、記載しておりません。

4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

5. 従業員数は、就業人員数であります。

6. 従業員の(外書)は、臨時従業員の当期間の平均雇用人員(1日8時間換算)であります。

なお、臨時従業員には、嘱託契約の従業員及び実習生を含んでおります。

2 【事業の内容】

当第1四半期会計期間において、当社が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

3 【関係会社の状況】

該当事項はありません。

4 【従業員の状況】

提出会社の状況

平成20年9月30日現在

従業員数(名)	91(14)
---------	--------

(注) 1. 従業員数は、就業人員数であります。

2. 従業員の(外書)は、臨時従業員の当第1四半期会計期間の平均雇用人員(1日8時間換算)であります。
なお、臨時従業員には、嘱託契約の従業員及び実習生を含んでおります。

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第1四半期会計期間における生産実績を事業部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門別の名称	生産高(千円)
コレットチャック部門	393,524
自動旋盤カム部門	21,602
切削工具部門	126,239
合計	541,367

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当社では、標準品の場合、受注から製造、出荷までが概ね1日で完了します。

また、標準品以外でも数日で出荷が可能な体制をとっております。従って、受注残は軽微であり、受注実績の記載を省略しております。

(3) 販売実績

当第1四半期会計期間における販売実績を事業部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門別の名称	販売高(千円)
コレットチャック部門	374,197
自動旋盤カム部門	21,602
切削工具部門	126,239
合計	522,039

- (注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
2 販売高で10%を超える主要な販売先はありません。
3 輸出版売高及び輸出割合は次のとおりであります。なお、()内は総販売実績に対する輸出高の割合であります。

輸出先		当第1四半期会計期間 自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日	
		金額	割合(%)
アジア	台湾	37,665	48.8
	韓国	15,856	20.5
	中国(香港含む)	6,665	8.6
	シンガポール	7,327	9.5
	マレーシア	5,253	6.8
	その他	4,446	5.8
合計		77,213 (14.8%)	100.0

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結はありません。

3 【財政状態及び経営成績の分析】

(1)業績の状況

当第1四半期におけるわが国経済は、世界的に広がる金融不安、消費意欲の急速な減退により景気後退局面に入ってきており、その影響を受け国内製造業は業況の悪化する企業が増加してきております。世界的に消費を牽引してきた北米の景気後退、アジアの経済成長率の鈍化などを背景にし、このところの為替市場での円高傾向も加わり、特に輸出比率の高い国内企業の減速感が目立ち始めています。ここ数年来好調を維持してきた自動車産業の減速は、その裾野が広いだけに影響が出てきており、逆に21世紀の課題である地球環境対策の風力・太陽光発電などは増加傾向にあります。

このような状況下、従来どおりコレットチャック・自動旋盤用カム部門では、高品質・短納期を徹底し顧客ニーズの充足に注力し、切削工具部門では新たに本格稼動した特殊切削工具製造と切削工具再研磨とで品揃えを増やし対応力を高めることで新しい顧客層の拡大に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期会計期間の売上高は522,039千円、営業利益は189,559千円、経常利益195,693千円、四半期純利益は115,274千円となりました。

(2)財政状態の分析

(総資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産の残高は、3,851,015千円(前事業年度末は3,849,721千円)となり1,294千円の微増となりました。これは現金及び預金が40,993千円、受取手形及び売掛金が29,824千円減少しましたが、有価証券が33,714千円、繰延税金資産が26,388千円、たな卸産が11,045千円増加したこと等によるものであります。また、当第1四半期会計期間末における固定資産の残高は、3,154,824千円(前事業年度末は3,272,020千円)となり117,196千円の減少となりました。これは機械装置が58,979千円、長期繰延税金資産が52,954千円増加しましたが、投資有価証券が226,735千円、建物及び構築物が6,611千円減少したこと等によるものであります。

この結果、当第1四半期会計期間末における総資産は7,005,840千円(前事業年度末7,121,741千円)となりました。

(負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債の残高は288,453千円(前事業年度末246,227千円)となり42,226千円の増加となりました。これは未払法人税等が28,700千円、役員賞与引当金が11,285千円減少しましたが、未払金が79,985千円増加したこと等によるものであります。また、当第1四半期会計期間末における固定負債の残高は264,411千円(前事業年度末は259,416千円)となり4,995千円の増加となりました。これは、退職給付引当金が3,154千円、役員退職慰労引当金が1,840千円増加したことによるものであります。

この結果、当第1四半期会計期間末における負債合計は552,865千円(前事業年度末は505,643千円)となりました。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産の残高は6,452,975千円（前事業年度末は6,616,097千円）となり163,122千円の減少となりました。これは利益剰余金が46,725千円、その他有価証券評価差額金が116,398千円減少したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期会計期間末における現金及び現金同等物は、前事業年度末と比べ141,315千円減少し、1,095,988千円となりました。なお、当四半期会計期間におけるキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは163,387千円の増加となりました。これは税引前四半期純利益195,564千円、減価償却費47,286千円等がありましたが、法人税等の支払額109,821千円があったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期会計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは203,293千円の減少となりました。これは有価証券の償還による収入500,000千円がありましたが、有価証券の取得による支出498,931千円、定期預金の純増額100,321千円、有形固定資産の取得による支出104,100千円があったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期会計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは101,409千円の減少となりました。これは全額、配当金の支払額によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期会計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第1四半期会計期間に以下の生産設備を取得いたしました。

事業所名 (所在地)	設備の内容	取得価額(千円)					従業員数 (人)
		建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	工具器具 備品	合計	
山梨工場 (山梨県韮崎市)	製造設備	—	95,918	—	—	95,918	81(11)

(注) 1 上記の金額には、消費税は含まれておりません。

2 従業員の(外書)は、臨時従業員の当第1四半期会計期間の平均雇用人員(1日8時間換算)であります。なお、臨時従業員には、嘱託契約の従業員及び実習生を含んでおります。

(2) 設備の新設、除却等の計画

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	48,000
計	48,000

② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成20年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成20年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	15,000	15,000	ジャスダック 証券取引所	—
計	15,000	15,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成20年7月1日～ 平成20年9月30日	—	15,000	—	292,500	—	337,400

(5) 【大株主の状況】

株主名簿の記載内容が確認できないため、当社としての実質所有株式数は確認できませんが、株式会社ナステックの平成20年10月9日付の変更報告書の内容は以下のとおりであります。

大量保有者	株式会社ナステック
住所	愛知県名古屋市緑区大高町字下塩田18番地
保有株券等の数(平成20年9月30日現在)	株式1,813株
株券等保有割合(平成20年9月30日現在)	12.08%

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、実質株主が把握できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成20年6月30日の株主名簿により記載しております。

① 【発行済株式】

平成20年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	—	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 15,000	15,000	—
単元未満株式	—	—	—
発行済株式総数	15,000	—	—
総株主の議決権	—	15,000	—

② 【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成20年 7月	8月	9月
最高(円)	445,000	430,000	370,000
最低(円)	428,000	340,000	323,000

(注) 最高・最低株価は、ジャスダック証券取引所におけるものであります。

3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の異動はありません。

第5 【経理の状況】

1 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号。以下「四半期財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期累計期間(平成20年7月1日から平成20年9月30日まで)に係る四半期財務諸表について、監査法人A&Aパートナーズによる四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査人は次のとおり交替しております。

第18期事業年度	あずさ監査法人
第19期第1四半期累計期間	監査法人A&Aパートナーズ

3 四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】
 (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成20年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,304,222	2,345,216
受取手形及び売掛金	457,219	487,043
有価証券	790,235	756,520
製品	4,640	4,781
原材料	49,506	47,256
仕掛品	151,702	142,766
繰延税金資産	92,543	66,154
その他	4,184	2,994
貸倒引当金	△3,239	△3,012
流動資産合計	3,851,015	3,849,721
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	※1 438,863	※1 445,474
機械装置及び運搬具（純額）	※1 669,560	※1 610,581
土地	319,337	319,337
その他（純額）	※1 33,866	※1 29,286
有形固定資産合計	1,461,627	1,404,679
無形固定資産	4,212	4,476
投資その他の資産		
長期預金	300,000	300,000
投資有価証券	1,256,477	1,483,213
繰延税金資産	128,458	75,503
その他	9,878	9,103
貸倒引当金	△5,829	△4,955
投資その他の資産合計	1,688,984	1,862,865
固定資産合計	3,154,824	3,272,020
資産合計	7,005,840	7,121,741
負債の部		
流動負債		
買掛金	18,198	17,154
未払金	143,963	63,977
未払法人税等	88,987	117,688
役員賞与引当金	3,515	14,800
その他	33,789	32,606
流動負債合計	288,453	246,227
固定負債		
退職給付引当金	242,581	239,426
役員退職慰労引当金	21,830	19,990
固定負債合計	264,411	259,416
負債合計	552,865	505,643

(単位：千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成20年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	292,500	292,500
資本剰余金	337,400	337,400
利益剰余金	5,986,090	6,032,815
株主資本合計	6,615,990	6,662,715
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△163,015	△46,617
評価・換算差額等合計	△163,015	△46,617
純資産合計	6,452,975	6,616,097
負債純資産合計	7,005,840	7,121,741

(2) 【四半期損益計算書】
 【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

	当第1四半期累計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)
売上高	522,039
売上原価	255,582
売上総利益	266,456
販売費及び一般管理費	※1 76,897
営業利益	189,559
営業外収益	
受取利息	2,645
有価証券利息	1,824
受取配当金	1,050
その他	615
営業外収益合計	6,134
経常利益	195,693
特別損失	
有形固定資産除却損	129
特別損失合計	129
税引前四半期純利益	195,564
法人税、住民税及び事業税	83,000
法人税等調整額	△2,710
法人税等合計	80,290
四半期純利益	115,274

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	当第1四半期累計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純利益	195,564
減価償却費	47,286
長期前払費用償却額	50
有形固定資産除却損	129
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	1,100
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△11,285
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	3,154
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	1,840
受取利息及び受取配当金	△5,519
売上債権の増減額 (△は増加)	29,824
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△11,045
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,044
未払金の増減額 (△は減少)	19,394
その他	△1,131
小計	270,408
利息及び配当金の受取額	2,799
法人税等の支払額	△109,821
営業活動によるキャッシュ・フロー	163,387
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の増減額 (△は増加)	△100,321
有価証券の取得による支出	△498,931
有価証券の償還による収入	500,000
有形固定資産の取得による支出	△104,100
貸付金の回収による収入	60
投資活動によるキャッシュ・フロー	△203,293
財務活動によるキャッシュ・フロー	
配当金の支払額	△101,409
財務活動によるキャッシュ・フロー	△101,409
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△141,315
現金及び現金同等物の期首残高	1,237,303
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 1,095,988

【四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第1四半期会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)
棚卸資産の評価に関する会計基準の適用	棚卸資産につきましては、従来、総平均法による原価法によっておりましたが、当第1四半期会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号(平成18年7月5日))が適用されたことに伴い、総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。なお、これによる損益に与える影響は軽微であります。

【簡便な会計処理】

	当第1四半期会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)
1 棚卸資産の評価方法	当第1四半期会計期間末の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前事業年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。 また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。
2 固定資産の減価償却費の算定方法	定率法を採用している資産については、事業年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

【四半期財務諸表の作成に特有の会計処理】

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

当第1四半期会計期間末 (平成20年9月30日)	前事業年度末 (平成20年6月30日)
※1 有形固定資産の減価償却累計額 1,970,322千円	※1 有形固定資産の減価償却累計額 1,924,471千円

(四半期損益計算書関係)

第1四半期累計期間

当第1四半期累計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)
※1 販売費及び一般管理費の主なもの
給与手当 12,184千円
賞与 5,773千円
貸倒引当金繰入 1,100千円
役員退職慰労引当金繰入 1,840千円
役員賞与引当金繰入 3,515千円
退職給付費用 1,775千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)
※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
現金及び預金 2,304,222千円
預入期間が3か月超の定期預金 <u>△1,208,234千円</u>
現金及び現金同等物 1,095,988千円

(株主資本等関係)

当第1四半期会計(累計)期間(自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第1四半期会計期間末
普通株式(株)	15,000

2 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成20年9月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	162,000	10,800	平成20年6月30日	平成20年9月30日

(2) 基準日が当事業年度の開始の日から当第1四半期会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

5 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(リース取引関係)

所有権移転外ファイナンス・リース取引について通常の賃貸借取引に係る方法に準じて処理を行っておりますが、当第1四半期会計期間におけるリース取引残高は、前事業年度の末日に比較して著しい変動が認められないため、記載しておりません。

(有価証券関係)

当第1四半期会計期間末(平成20年9月30日)

その他有価証券で時価のあるものが、事業の運営において重要なものとなっており、かつ、前事業年度の末日に比べて著しい変動が認められます。

	取得原価(千円)	四半期貸借対照表 計上額(千円)	差額(千円)
株式	—	—	—
債券			
社債	500,446	291,304	△209,141
その他	817,676	756,477	△61,199
計	1,318,122	1,047,781	△270,341

(デリバティブ取引関係)

当第1四半期会計期間末(平成20年9月30日)

当社は、デリバティブ取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

当第1四半期会計期間(自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

当第1四半期会計期間(自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)

該当事項はありません。

(持分法損益等)

当第1四半期会計期間(自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)

関連会社が存在しないため、該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

当第1四半期会計期間末 (平成20年9月30日)	前事業年度末 (平成20年6月30日)
1株当たり純資産 430,198.33円	1株当たり純資産 441,073.19円

2 1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益

当第1四半期累計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)
1株当たり四半期純利益 7,684.99円

なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎

項目	当第1四半期累計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)
四半期損益計算書上の四半期純利益(千円)	115,274
普通株式に係る四半期純利益(千円)	115,274
普通株主に帰属しない金額(千円)	—
普通株式の期中平均株式数(株)	15,000

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成20年11月10日

株式会社エーワン精密
取締役会 御中

監査法人A&Aパートナーズ

指定社員
業務執行社員 公認会計士 笹本 憲一 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 齊藤 浩司 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社エーワン精密の平成20年7月1日から平成21年6月30日までの第19期事業年度の第1四半期累計期間（平成20年7月1日から平成20年9月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び四半期キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社エーワン精密の平成20年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。